SSKW 2002年4月23日第三種郵便物認可（毎月3回5の日発行）
2013年12月7日発行ＳＳＫＷ増刊　通巻第3145号

こぶしだより ずっとくるよ

Vol. 361
2013・11・15発行

苦節２年！今ではそばゆでを任されるまでになりました。おらがそば茶屋、水曜～日曜まで元気に営業中

【４００字で語る福祉⑤】

縁を知り、思いを聴き、受け止め、一緒に悩むこと

◎荒木紗織さん
（上三川相談支援専門員）

福祉の仕事を始めて数年が経つが、改めて“福祉”について考えてみるとなんだか表題が大きすぎてうまく説明ができない。

インターネットで検索すると“ふだんのくらしのしあわせ”というフレーズがあった。ここでいう“ふだんのくらし”とは何か。それは、家族であったり、親族であったり、友人、近隣住民、学校、職場など、それぞれのコミュニティであり、それぞれがお互いを支え合って成り立つものと考える。それが確立することで、幸せを感じ取れることにつながるのだろう。

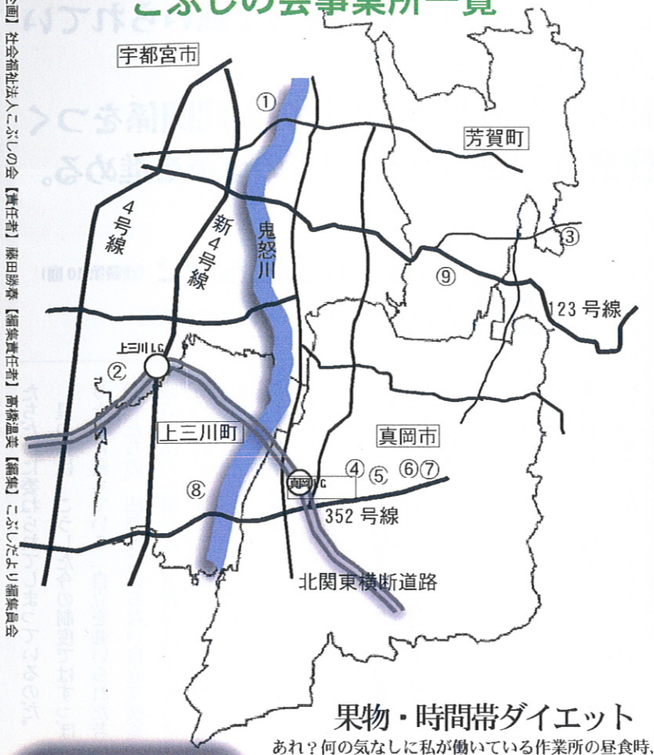
それをふまえた上で地域の相談支援員としてできることは、その人のコミュニティを知り、その人の思いを聴き、受け止め、一緒に悩むこと。その人の夢や希望に近づけること。理想を形にすることだと思う。

私が考える福祉とはわれわれの生活に身近なものであり、お互いがお互いを支え合うこと、また誰かが困っていたら、互いのコミュニティで協力し合い、その人の応援団になることだと思う。

●特集：職場でのホウレンソウ…2－5
● 400字で語る福祉　⑤荒木紗織（上三川相談支援専門員）⑥菊池豊（チャレンジセンター主任）⑦金子洋司（セルプ・みらい支援員）⑧小野敦生（セルプ・みらい支援員）…1, 2, 3, 8
●新・たまみシュラン【他の事業所にも行った！/ なすび食堂】…6－7
●けやきまつり（予告）…8
●一般就労者の現在　●ギャラリーこぶし…9
●こぶしづかん……10
●連載【社会モデルを地域文化に⑩】…11
●事業所一覧　●おのぶくろう…12

【企画】社会福祉法人こぶしの会【責任者】藤田勝春【編集責任者】高橋直美【編集】こぶしだより編集員会
【住所】〒320-0919 宇都宮市柳田町1401番地【発行所】東京都世田谷区砧6-26-21 特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価50円

こぶしの会事業所一覧



① 宇都宮市柳田町1401
□こぶしの会法人本部
028-613-3707　（F）028-666-6128
028-666-0418（居住生活支援事業部）
□第２けやき作業所
028-680-5937　（F）028-680-5938

② 宇都宮市茂原町837-1
□こぶし作業所
028-653-1020　（F）028-688-1121
□障がい者生活支援センターこぶし
028-613-5703

③ 芳賀郡芳賀町祖母井2244
□けやき作業所
028-687-1040　（F）028-677-5789
□地域活動支援センター「ほっとCHA」
090-7820-9165

④ 真岡市亀山1043-23
□セルプ・みらい
0285-81-1155　（F）0285-81-1177

⑤ 真岡市荒町3-9-5
□県東ライフサポートセンター真岡
0285-83-2567　（F）0285-85-8055
□お菓子工房　ピケ
0285-81-7091　（F）0285-81-7092

⑥ 真岡市荒町111-1
□県東圏域障害者就業・生活支援センター「チャレンジセンター」
0285-85-8451　（F）0285-85-8452

⑦ 真岡市荒町110-1　市総合福祉保健センター内
□芳賀地区障害児者相談支援センター
0285-80-7765　（F）0285-80-7765

⑧ 河内郡上三川町大字上三川5082-15
□上三川ふれあいの家ひまわり
0285-38-6821　（F）0285-38-6841
□上三川町障がい児・者生活相談支援センター
0285-38-6854
□アトリエ・ド・パン　シュシュ
0285-56-7731　（F）0285-56-7732

⑨ 芳賀郡芳賀町西水沼438-2
□おらがそば茶屋
028-680-5091　（F）028-680-5092

果物・時間帯ダイエット

あれ？何の気なしに私が働いている作業所の昼食時、周りを見渡してみると…ぽっちゃりな方が沢山います。コーラ500mlに含まれるカロリー225ｋcal。これを体重50kgの人が消費しようと思ったら、ウォーキング68分・ジョギング34分・サイクリング54分・入浴85分・半身浴97分・水中ウォーキング54分・ストレッチ108分・勉強175分・睡眠304分だそうです。そんな運動なかなか皆さんできない…。

でも少しだけ“ある物”の食べ方を変えるだけで体重増加を抑えると…。その食べ物はなんと、果物！

果物は朝食べると金の価値、昼食べると銀の価値だそうで、朝食べると果物に含まれる糖分（果糖）は血糖値を上げにくく、素早く（ご飯の約4倍。肉・パンの約6倍で）エネルギーになるんです。その他便秘予防・骨量が減るのを抑える・がん予防にも。ただし、夜果物を食べてしまうと…太るのです。果物時間帯ダイエット！ですね。

【編集後記】

●夏がすぎさったあとの時間の感覚がなぜか早かったように感じます。夏の暑さに頭がぼわんとしてしまったんでしょうか。そのせいか、最近のつめたさを身にしみて感じてしまいます。ビリッとしないと。（菊地）

●2013年を振り返ると、お正月からインフルエンザでダウンし、やっぱり厄年なのかな…と思う一年でした。健康第一！予防接種はお早めに。（星宮）

●さて、今年度も上半期が終わり残すところあと半分以下になりました。少し前までは感じませんでしたが最近、「一年って短い」と感じるようになりました。歳かな…仕事に私生活、もっと充実すれば違うのかな。（小野）

●10月下旬、足尾のキャンプ場に行ってきました。そこで見た星空は感動的でした。トロッコ列車に乗り、そこでも自然に癒されてきました。次はどこに行こうかな…。（長谷川）

●寒くなってきたので我が家ではこたつが出動しました。こたつのポカポカ感が好きで一度入るとなかなか出られず、極力動かなくてすむようにして物ぐさライフを満喫しています（笑）（尾池）

●最近強く感じること。福祉業界の皆さん、話し上手。口が達者とは言い方が悪いが、よくもここまで口と頭が回るもの…と、人前でしゃべることが苦痛に他ならない自分は感心してしまう。ただ不思議なのは、それをうらやましいとか、真似たいとは全く思わないこと。自分は自分らしくありたいなあと。以上、400字で語りきれなかった福祉でした。（松本）

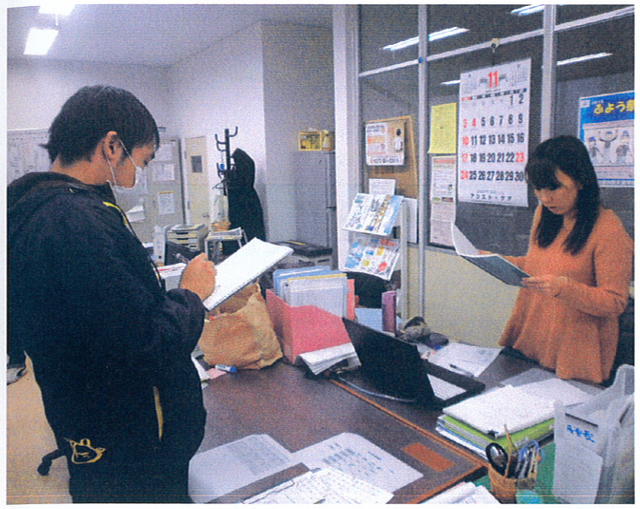
●先日、栗野にある「たろっぺ茶屋」にそばを食べに行ってきました。そば好きの方に教えてもらっただけあり、とてもおいしいおそばでした。近くに行った際はぜひ行ってみてください。天ぷら盛り合わせもおすすめです。（篠崎）

お詫びと訂正●前号（360号）特集で「サカモト菓子店」の電話番号に誤りがありました。×誤→028-656-2456　○正→028-656-2455

職場でのやりとり、うまくいってる?!
こぶしの会の【報・連・相】の実情と改善方向

（アンケートで見る）

社会人として当たり前のように行い、その内容もできて当然のように求められる「ホウ・レン・ソウ（＝報・連・相）」。就労支援のサービスを提供しているこぶしの会で実際の支援に当たっている職員はどのように感じ、取り組んでいるのかを調査。結果を載せるとともに、編集部がおもった改善提案を考えてみました。（報告／菊池・星宮）



アンケートの結果から【良く行えていること】は、朝礼や夕礼の実施。各事業所でルーティンワークとして実施し、当日の予定や申し送り、必要な情報の共有が図られているようです。また、電話受付時の連絡についても、多くの回答者がメモを残すことを心掛けており、口頭でも伝えるよう意識している職員もいるようです。

それでも「何かが足りない」と感じている人もかなりいます。【現状に疑問・課題・不満に感じていること】。最後に【あなたの思う改善案】も掲載しました。なるほどと思うものも多々あり、いいものは素早く取り入れて職場で実践していきたいですね。

ではまず報・連・相についておさらいしましょう。

【報・連・相とは】

・報告…上司からの指示や命令に対して、部下が経過や結果を知らせること。

・連絡…上司や部下に関わらず、簡単な情報を関係者に知らせること。

・相談…判断に迷うときや意見を聞いてほしい時に、上司や先輩、同僚に参考意見を聞き、アドバイスをもらうこと。上司が部下に相談することもある。

アンケート①【良く行えていること】

・毎日の朝礼、夕礼を行っており、情報共有、引き継ぎを行っている。

・毎日の朝礼で、人（職員）の動きがよくわかるようになった。そのため必要なことはその人がいるときに伝えよう・・・など、配慮することができたり、連絡のときも伝えられるようになった。

・毎日夕礼を行い、各部署の特記や利用者の欠・遅・早などを報告し合い、施設全体の日誌つけている。送迎に出ていても、帰ってきてから日誌を見ればその日のこと、次の日のことが把握できるようになっている。

・記録を工夫して共有が必要な情報や伝達事項をきちんと継続して共有できている。

・連絡事項や報告しなければならないものは、自分なりにわかりやすくメモを残している。

・電話の所に受付簿があり、伝えもれを防げる。

・電話での用件など、留守の時は必ず詳しく書いた内容のメモを置いといてくれる。

・他の班と仕事の内容や量によって、相談、連絡を取り合いながら行えている。

・作業所と CH で専用の連絡伝達用紙がある。

【報・連・相の目的】

①仕事の問題点、結果などを知らせることで、指示された仕事の進行状況を伝えることができる。

②作業の方向性の確認、効率的に作業を進めることへのアドバイスや指示を得ることができる。

③情報整理の方法を学ぶことにより、自己中心的な考えの方向性をただして、チームワークを向上することができます。

●連絡の達人を目指せ。

これらのことは、職場で仕事を円滑に進めるために欠かすことのできないものです。報・連・相が機能していない職場では、上司と部下の上下の意志疎通も、スタッフ間の横の意志疎通もできていないので、仕事の効率は悪くなります。そのため、何らかのミスをしたり、トラブルが発生したりする可能性が高くなります。支援を必要とする状態にある人たちが日常を気持ちよく過ごし、また、働くことや活動を通して生きがいをつかむこの場所は、スタッフ間以外のコミュニケーションも必要不可欠です。支援者が情報やコミュニケーション連携の核を担うことがとても大切な職場なのです。と、頭で分かっても勤務体制上コミュニケーションをとりにくいと言った声も多くあがっていました。この課題にも真剣に取り組む必要がありますね。

それではここで、「ホウレンソウ」の中でも、主に「連絡」に焦点を絞ってお伝えしていきたいと思います。

●8割の8割しか伝わらない

こぶしの会の職員も一社会人です。「報・連・相」の大切さは重々理解しているはずですが、連絡漏れや伝えるべきことが抜け落ちることもあるようです。

では、その原因は何でしょう。かつて聞いたことの受

400字で語る福祉⑥

※職員が 400 字で思っている"福祉"を語ります。　◎菊池豊さん（チャレンジセンター主任）

必要なとき、揃っていること

福祉とは、必要とする人がいるから必要なのであって、必要としない人には必要だと感じないのかもしれない。そのため、一般的な認知が進まない現状なのだと最近感じる。「高齢者」は加齢とともに考えたり、自分が通る道だ。「児童」は人生のはじまりでもあり、子供を持つことによって通る道でもある。「障害者」は「高齢者」にも「児童」にも重なるけれど、障害を持っているかどうかでいうと通らないことの方が多いのではないかと思う。だから知らない人が多いのだろう。それは社会が障害者とそうでない人とを分けたレールを敷いているからだと思う。

福祉とは「幸せな社会」という感じなのだろうか。情報を取捨選択することは自由なので、福祉について知らない人がいても良いのかもしれない。でも、必要としたいときに必要なことが揃っていて、受け入れてくれる社会であることが安心するのだと思う。「人」を受け入れられる土台があれば、それで良いと思う。

■全職員アンケート

■回収率 35%。全職員向けでしたが、低調な回収率。アンケートの周知と協力依頼についても改善が必要だと思いました。（き）

400字で語る福祉⑦

※職員が 400 字で思っている"福祉"を語ります。

◎金子洋司さん（セルプ・みらい支援員）

年寄りと障害者、当事者として共に働く

私は障害者福祉施設に勤務し、利用者を支援することを仕事としていますが、社会福祉士を志向していません。それは、特にソーシャルアクションを仕事として行うことに否定的ですし、さらに、「社会変革」を求める活動を行う自分に幸せを感じないからです。制度の中で求められていることや制度の枠を超えて「本来」どうあるべきかを考えること、そしてそこから実際の行動を方向づけていくことは好きです。だからと言って「なんでもできる」「なんでもしたい」と思えるほど若くない（小２のとき東京オリンピックを見ました）。

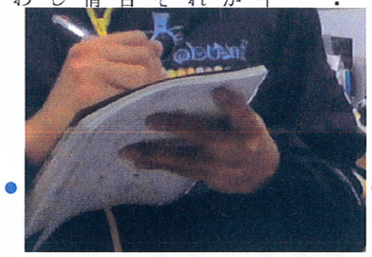
「働きたい意欲はあるけど雇ってもらえない」年寄は、社会の大きな問題の一つです。私も可能な限り働きたい。年寄と障害者が共にやりがいを持って働くことができる「職場」はその一つの答えです。年寄は支援者としてではなく当事者として共に働く（経済活動を行う）のです。そこは私にとって最高の福祉の現場だろうと思う。

け売りですが、**『どんなに伝えようとしても思いの80%しか相手に発信できない。そして、どんなに受け止めようとしても発信者の80%しか受け止めることができない。つまり、80%×80%＝64%しか思いは伝わらない』**とのこと。しかし、支援のプロである私たちはそれで満足してはいけません。アンケート結果から見えた**【あなたの思う改善点】**をもとに明日から、いえ、今日から連絡の達人になりましょう。

●「事実が何であるか」が大切

「いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのように・どれくらい」

連絡を行う前に、上述したようにポイントを整理することが必要です。ここから見えることは、発信者は連絡しなければならないことは認識できていても、その伝えるべき内容の整理が不十分な場合があることです。そのために、必要な情報が抜け落ちてしまい、発信者が連絡したつもりでいても充分にその内容が伝わりきらないのかもしれませんね。また、曖昧な表現は避け、事実のみを伝えましょう。大切なことは「事実が何であるか」です。発信者の見解を織り交ぜてしまうと、事実とは異なった形で伝わりかねないので注意が必要です。



●電話受付簿＋口頭で伝える

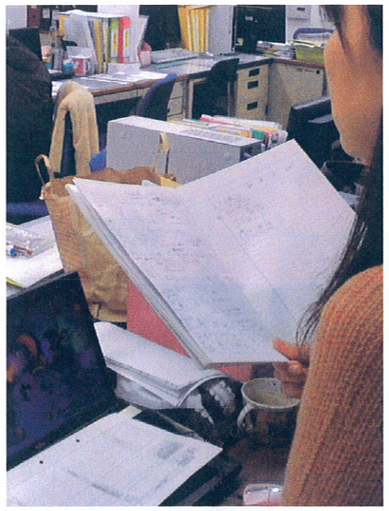
「最低限の情報を押さえるためのツール（電話受付簿など）の活用」

「書面（メモ）を残しておくだけではなく、直接口頭でも伝えるようにする」

まず、電話での連絡事項や情報を関係者に伝えるときに、定形の書式があることにより、最低限必要な情報を整理することができます。こぶしの会の現状では、電話のところに受付簿がある職場もあれば、そうでない職場もあります。そのため、最低限押さえておくべき情報の統一を充分に図れない状況とも言えます。早速改善しましょう。

また、メモを残すことだけでは、受信者側がそのメモを見ているとは限りません。メモを残した事実を伝え、その内容が伝わっているかどうかを発信者側が確認することも大切なのです。直接伝える場合も、受信者が忙しそうなときに伝えるということは、タイミングとしては適切ではありません。受信者の状況を見計らって伝えるというタイミングも重要なポイントになります。

●目的のために（連絡）手段をどう活用するか



現状は、様々なニーズに対応するために、多職種の職員が、様々な勤務体系で働いています。そのなかで情報が周知されない（一部漏れる）事態が起こっていることも事実として起きています。恐らく「〇〇の場合は、□が、△する」と言ったような、いわゆる「たられば」のときの連絡方法がまだ確立されていないからなのでしょう。だからこその「いまでしょ！」

【推奨します！】

①ネット環境を活用した情報の共有

ネットワーク環境の活用の目的を明確にまずしましょう。可能性は無限大です。

②活かされていないホワイトボード（掲示板）の活用

決められている日課や、日々変化する日程（予定）に活用することで、職員も利用者の方も目で見て確認することができます。「見える化」ですね。

③決められたルールの遵守と実行

組織の一員であれば当然のことですが、決められたルールは遵守し、実行に移しましょう。組織の活性化のために、実践後の検証の後に、更なる良いルールづくりを行えば良いのです。

【さいごに】

何事においても、目的やねらいを各自が認識していなければその実行していることの効力は充分に発揮されません。また、経験値として積み重なっていくこともないでしょう。みなさんの回答を拝見し、『今』が見えました。お互いがお互いに相手を慮ることを前提として、目的のために手段をどのように活用するのかが大切なのだと感じました。

今回アンケートに協力してくれたみなさま、ありがとうございました。これを契機により良い職場環境づくりをめざして所長・主任のケツをたたきましょう！

アンケート②【現状に疑問・課題・不満に感じていること】

・「伝えたいこと」「伝えるべきこと」「伝えてほしいこと」がはっきりしていれば、伝達ツールが整備されていなくても、報・連・相にもれはないと思いますが…。

・知りたい人、教えたい人どちらからでも発信するようにすれば良いと思います。（心がける、気配りする）

・みんな聞かなすぎ、教えなさすぎ、気づかないふりでもしているのでしょうか。

・階層性（職責）や専門性という立場の違いにより、スムーズに意図が伝わらない。どの程度の情報量を共有するのかが不明確になりがち。その上で時間の余裕がないタイムラグが生じ、支援の不統一に至る。

・定例の打ち合わせがマンネリ化している。打ち合わせや会議中のパソコン打ちがあって、聞いているのかどうかわからない。

・日によって機嫌、不機嫌の波が大きい人間は対応に困る。

・立場が上の人、声の大きい人、よくしゃべる人、しゃべるの上手な人の意見は通りやすいが、そうでない人間の考えというのはなかなか伝わらない。

・連絡が遅い。悪い。（タイムリードが短い）

・他事業所に呼び出しの電話をすると、３、４分待たされた挙句、不在ですとの答えが来ることが多い。

・事業所間でFAXでのやり取りがあるが、FAXを送ったのに「届いてないです」という連絡が来る。

・メールやFAX等で各事業所に情報を流しても、流した先の事業所間で情報共有ができていない。たまに、同じ事業所の数人の職員から、それぞれ個別に連絡が来ることもある。

・各事業所での利用者への支援が忙しいということを考え、用件をFAXでやり取りする場合、返信が遅い時がある。

・勤務体制上、職員が集まる時間が少なく、口頭での伝達がしにくい。

・出勤時間や退勤時間がバラバラなため、顔を合わせることが難しい職員もいて、伝えたいことや話したいことがあっても、すぐにやり取りができない。

・施設が南と北に分かれていて、少し離れているため、お互いの棟の状況が分からないし、伝えたいことがあっても電話がうまく繋がらなかったりして、連絡がスムーズにいかないことがある。

・末端の職員まで連絡事項が伝わってこないことがある。

・使ってないボードがあるので活用したらいいのにと日々思う。

・何か変更があった場合は、上司に忘れない内に伝えるよう心掛けているが、給食の用意の場面や送迎バスの場面で「今日〇〇さん休み？（帰った？）」ということがあると、自分は一体どこまで伝えればいいのかわからなくなる。

・対応が多岐にわたるため、行動のパターン化が難しいとは思うが、行動マニュアル、ルーティンの活動の見える化をもつと徹底したほうがいいと思う。

・疑問点に関しては、基本的に主任、所長に聞いたり相談しているが、業務のやり取りが口頭でのやり取りが多く、メモをとるようにしているが、忘れたり、勘違いするケースもあり、マニュアルとか、手順書が少なすぎるので、「前に言いましたよね！」と言われるのが辛い。

・定められたツールがないのは困るときがある。

・何かある時はメモをとるが、作業に追われて報告が遅くなることがある。また、口頭でのパパッとした指示に対してメモをとるヒマもなく仕事をしていて、報告が疎かになってしまうことがある。

・人に聞いたのも忘れることがある。

アンケート③【あなたの思う改善案】

・朝礼、夕礼での報告の徹底。不在時にはその前に記入。

・休みや状況が変わる時は、事前に打ち合わせをして動き等の確認をしておく。

・施設の日誌を職員は必ず目を通す（毎日）決まりにする。

・伝達用紙へ記入する際は、具体的に書くとわかりやすいかと思った。例：〇〇さん通院。→〇〇さん　体調不良のため休み。本日通院（当日受け）となっているとわかりやすい。

・口頭でのやり取りの他、所定の様式に書きやり取りを行う。

・文章やデータで共有することを徹底する。

・せっかくスタッフボードを作ったのだから、上手く本部からの連絡をアップしてほしい。

・スタッフボードを活用して、職員の声をあげられるようにしてほしい。

・メール、LINE等でもいいので何かあった時には連絡等をしていただけるといいと思います。

・勤務時間が違ったり、休みが入ったりしても情報が届くよう受付簿の作成。そのファイルを個々で確認。

・部署ごとのメール、伝言BOXを作り、ついでにカラーで分けたりして、目で見て分かる、読んで分かる、担当者は朝一回、夕一回、必ずチェックすることを徹底する。

・マニュアルがあると、仕事がやりやすいかと思った。例：「〇〇の場合は〇〇して、〇〇する」と、誰がどこまで行うかがはっきりしている方がミスが少なくなるかと思った。

・他の人を軽く見てるから忘れるのでは？相手を思いやるようにする。

こぶしんぽ バシザイ!!

たまみ☆ジュラン

みなさんこんにちは、2代目案内人のMAYuです。

今回はこぶしの会を飛び出して栃木市にある社会福祉法人なすびの里の「なすび食堂」にいってきました。

昭和を感じさせるレトロなたたずまい（観光客のウケが良いそうです）に、モロ（サメの身）のフライ・苺を巻いたいなりずしなど栃木県民でもなかなか食べられない栃木のソウルフードを腕の確かな板長さんと明るい仲間たちで提供しているとってもすてきなところでした。

イチ押しは、はなすびの里で作ったうどん！　太くてコシがあっておいしかった～）^o^(　　こぶしの中の取材だけでなく、外に出ないといけないなぁ～と実感した1日でした。

なすび食堂に行ってみた

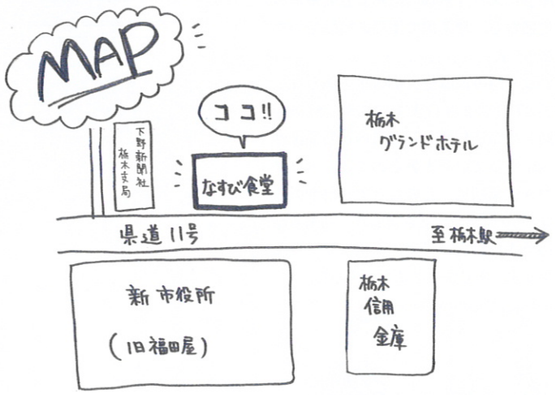
栃木（社福）なすびの里

モロのフライ「栃木定食」980円、苺氷350円、生うどん（2～3人前）280円。冬の目玉の鍋焼きうどんは900円。

苺氷（いちごおり）をいただきました！いちご味のかき氷ではないんです。なすびの里で収穫した新鮮な苺を特殊加工して凍らせて、苺そのものをそのまま削ってあるんです！だから苺の味も濃く、甘酸っぱさもしっかり楽しめました！氷としての食感と口の中での果物としての食感もgood

【なすび食堂の歴史】

「地域との理解を深めるためには障害者がいる場所が必要」と、2009年に日本財団「もったいないをカタチに」の制度を利用し、伝統ある古い建物を改装して働く場所を作りました。元々はシマダヤ商店という乾物の卸屋さんで、なすび食堂の店頭に飾っている看板は、シマダヤ商店が現役のころに使っていたものだそうです。



米とぎ、麺ゆで、まかない料理となんでもチャレンジしています。

【なすび食堂ってどんなとこ】

－何人が働いているの？－

・板長、店長さん（支援員）、パートさん、仲間4人が働いています。仲間は2～4人ずつ交代で、土日も仕事を頑張っています。

－これからの冬メニュー、目玉は？－

・鍋焼きうどん！　去年の人気メニューです。あとは、商店街のイベントがある時に合わせて板長さんがメニューを考えるのでお楽しみです。

－今後の目標は？－

市役所が近くに移転してくるので、それに備えてスキルアップ！

－ひとことどうぞ－

・いいとも！のタモリさんに食事に来てもらいたい。

・ＡＫＢ48のライブに行きたい！

なすび食堂　■栃木市万町7-3　■電話：0282-23-1010　■水曜日定休　11:00~15:00（L.O）　★★★この記事を提示していただいた方にソフトドリンク1杯サービス…★お食事の方のみ有効。★他のクーポン券との併用はできません。★都合で予告なくサービスを打ち切る場合があります。

もうすぐ けやきまつり

楽しいイベント盛りだくさん。バザー用品の寄付も絶賛募集中。

■日頃の感謝の気持ちを込めて、また、けやき作業所をより知っていただくため、12月14日土曜日に「けやきまつり」を行います。

●オープニングを飾るのは芳賀東小学校のマーチングバンド。見た目はキュートですが、確かなパフォーマンスで元気に会場を盛り上げます。

「にこにこパン屋さん」の焼き立てパン直売、模擬店、バザー、お楽しみ抽選会、小学生くらいが対象のチャレンジランキングなどなど、イベント目白押し。

12月14日土曜日はけやき作業所まで遊びに来てください。

●内容を変更する場合もあります。
※駐車場は約50台。
※バザー用品を募集中。提供いただける方は連絡を。詳細はけやき作業所まで。
TEL 028-687-1040（担当：東岡、先灘）。

栃木県薬剤師会様から薬品の寄贈

11月12日（火）栃木県薬剤師会様のご厚意により芳賀郡市薬剤師会会長山口友也様から、救急用の薬品の贈呈をいただきました。

この取り組みは厚生労働省が主体となり10月17日〜23日までの「薬と健康の週間」に毎年数十か所の県内社会福祉施設へ贈呈している事業とのこと。今年はけやき作業所に、とのことで包帯やガーゼなど14品をいただきました。利用者様の応急手当などを目的に使用させていただきます。ありがとうございました。

400字で語る福祉⑥

※職員が400字で思っている"福祉"を語ります。

◎小野敦生さん
（セルプ・みらい支援員）

笑顔

私が考える社会福祉とは「人の幸せを支えるもの・人の生きにくさをサポートする」ことである。

他とは代えられないその人自身の幸福を目指すことの入り口となるためには、利用者一人一人と向き合い、信頼関係を築き、互いの「笑顔」を見ることと感じている。「笑顔なくして人間らしい暮らしはできない」というのが持論です。でも、その人の笑顔をどう引き出すのかが工夫のしどころ。様々なハンディキャップやその特性を見極めるだけでなく、時にその人の個性を尊重し活かすこと。どんな障がいでも、高齢になろうとも、表情の変化が少ない人であろうとも、顔で笑う・心で笑う・身体で笑う。笑うことはできる! 今の日本では「顔で笑い心で泣く」ことが多い世の中になっていると感じている。そんな中、心から笑いあえることの尊さがある。たとえこれから日本の福祉が変わっていこうと、変わってはいけない大切な考えだと思っている。

パン販売車にもポスターが。

GALLERY KoBuShi

W杯、リオ五輪も制作中。

衰えを知らぬセンスに、再度感服

およそ一年前、パン販売の風景のスケッチを紹介したのを覚えているでしょうか？　その作者、第2けやき作業所の**楽摩ロナルドカズオさん**が再び登場。当コーナーではじめての2度目の登場と相成りました。

今回はハロウィンをモチーフにした販促用のスケッチで、パン販売の際にも使用しているそうです。販売用車両にも作品が貼ってあり、「まるで販売部長（中村所長談）」だそうです。原案の数々も作業所で見ることができましたが、腕前は全く衰えていません。しかも空き時間の製作で作業時間にはしっかり仕事をしているというから素晴らしい！

現在は2014年サッカーW杯や、2016年のリオ五輪に関する作品も制作中とのこと。自分の故郷だけに気合が入っていることでしょう。

そんな楽摩さんは、取材の翌週から実習ということで、期待と不安が入り混じった様子でしたが、それでも明るく元気に取材に応じていただきました。一般就労者のコーナーで会える日を楽しみにしています。**（松本）**

一般就労者の現在（いま）

休む時は休む、作業は作業…そういう練習を作業所でやることが大切かな。

350号で登場した百武友恵さんを再びご紹介します。当時は真岡郵便局勤務でしたが、あれから2年、今は益子郵便局で郵便の仕分け作業を頑張り続けています。

ー仕事で大変なことは？ー

「今、地域の中でも郵便の多い、大変な地区を担当しているので、配達の人が出るまでに素早く正確に仕分けないといけないことです」

ーこれから年賀状シーズンですけど、お正月も仕事で大変ですねー

「逆に、自分のペースが狂わなくていいのかもしれません。長く休むと生活リズムを戻すのも大変なので…」

ー就職を目指している仲間にメッセージをー

「健康管理、体調管理が大切だと思います。生活のペースを整えて、休む時は休む、作業の時間は仕事に集中する、そういう練習を作業所でやっていくことが大切だと思います」

「面接に受かるのがゴールではなく、そこがスタートだと思います」

…ここまで熱いメッセージをくれた方、初めてです。

今よりももっと仕事のスピードと精度を上げたいと目標を口にした百武さんは、交流会などでチャレンジセンター登録者の方とも交友関係を持って、休日には食事や買い物に行ったり、週2日の半日はサポートセンターで仲間と仕事をしたりと、ONとOFFの切り替えも非常にうまくできているよう。そこが、忙しい中でも長続きできている秘訣ではないかな、と思いました。

ちなみに百武さんは、こぶしだよりを毎号楽しみにしてくれているそうで、編集後記を読むのも面白いとのこと。編集委員のみなさん、下手なことは書けませんね…。

（文●松本祐一／協力・チャレンジセンター）

【こぶしづかん＝辛夷図鑑】こぶしの会に生息するゆかいな職員のおすすめの本を毎回ご紹介。

わたしのおすすめの本

こぶしづかん

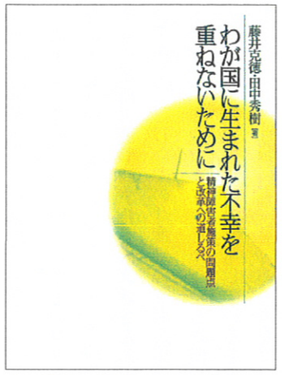
仕事の話でアツい女。癒しは動物の小物

飯沼寛乃（いいぬま・ひろの）さん
第2けやき作業所
就労支援員

この仕事に就いているから。そして仲間の生活を意識して仕事に取り組むために。という思いがこの本を読むきっかけ。この本を読んで、世界から遅れてしまっている日本の精神障害者の医療と福祉の現実を知ることができたそうです。

自分たちがやらなければならない仕事とは。与えられた仕事だけではなく、仲間のためにやらなければならないことがたくさんある。仕事を待つのではなく、自分で考えて積極的に動かなければならない。仲間とは、仕事以外にももっと関わって仲間のことを知っていかなければならない。このようなことを考えながら日々の仕事に取り組まれています。

取材の間、仕事の話に熱が入りあっという間に時間が過ぎてしまいました。仕事の疲れを癒してくれるものは、動物。現在、動物に関する小物を集めることに夢中になっているそうで、デスク周りには、さりげなく動物が見え隠れしていました。愛用のボールペンもパンダがモチーフ。休日は、テレビを見たり、雑誌を読んだり自宅で過ごす事が多いんだそうです。



わが国に生まれた不幸を重ねないために—精神障害者施策の問題点と改革への道しるべ—
●藤井克徳・田中秀樹／著　●萌文社／1600円＋税
なぜ日本は世界からとり残されたのか？　30年も遅れてしまったといわれる日本の精神科医療と精神障害者福祉。その原因と改革の方向性を示す。

田澤元部長から手紙つきでもらった本なので読んでます。

上田泰洋（うえだ・やすひろ）さん
セルプ・みらい主任

「活字だけの本は嫌いなんで、漫画しか読まないです」

取材の前段階から「本当に本はないから漫画でもいいんですか？」との返事だったので、どんな漫画を紹介していただけるのかと思い取材に向かうと、活字の本を準備していただけていました。

「“私が読んで、おもしろかった、これから読んでみたい本です。気が向いたら読んで欲しい、向かなかったらそのままで”という手紙つきで、退職された田澤部長からいただいた本です。なのでぜひこれだけは読んでみたいと思い、現在読んでいる最中です。だから感想とかおすすめとかは今ないですが…」と、まさに今読み途中！　しおりが挟んである状態で紹介していただきました。活字だけの本が嫌いということで読むのにも時間がかかっているそうですが、この本だけは読んでみようという強い思いを感じました。

趣味は、魚釣り・お菓子作り・絵画・洗車。時間がある時は、スケッチブックに絵を書いているそうです。得意なものは模写。ときには魚釣りをしながら風景画を描くこともあるんだとか…。

最後に上田主任より「いつも応援いただきありがとうございます。セルプ・みらい、お菓子工房ピケを今後ともよろしくお願いいたします」

「自分の木」の下で
●大江健三郎／著・大江ゆかり／画　●朝日新聞出版／1200円＋税
なぜ子供は学校に行かなくてはいけない？　素朴な疑問に、ノーベル賞作家はやさしく、深く、思い出もこめて答える。子供から大人までにおくる16のメッセージ。

社会の諸矛盾の中で「傍観を強いられている人」も大勢いる。傍観者を含めた問題解決の人間関係をつくる作業が、地域と自分自身の改革を進める。

社会モデルを地域文化に（連載第10回）
高橋温美（こぶしの会常務理事）

宇都宮に「星の家」というグループホームがある。児童養護施設の子どもたちは、高校進学ができなければ施設を出て、否応なく自立しなければならない。虐待などで精神的にも環境的にも困難な状況におかれている。そのため、現在の児童福祉制度の中では、自立する上での課題を抱えた彼らの成人後の暮らしは、貧困の連鎖とも言うべき状況を作り出すのだが、その解決は天涯孤独の15歳の子どもたちだけに委ねられてしまっているのだ。

星の家は、こうした今の制度ではすっぽりと抜け落ちている「自立を強いられた若者」たちの、法制度にのらない自立支援施設の全国の先駆けだ（現在では星の家の活動が評価され制度化されて、全国的な展開が始まっている）。あわせて、その当事者活動の拠点でもある「サロン・だいじ家」も運営している。

「17・18の人間関係から一歩も進んでいない39歳、…彼の自立とは？」という洞察。

最近、星の家のホームページを見る機会があり、その中に会報紙を覗いていたら、前回私が触れた小山市の兄弟虐待死事件のことが載っていた。自分のそれは、虐待死という事件に対する表層的な恐れや悲しみの感情、そして社会一般のすさんだ状況を客観（傍観）的に俯瞰したものにすぎなかったのだが、星の家の関係者が「可哀そうと、他人ごとには済ましてはいけない」と伝えていたのは、「事情を深く捉えずに軽率かもしれないが」と前置きし、「暴走族の先輩後輩という人間関係の中で、虐待の発覚を恐れたもことが殺害動機だとすると、17・18歳の頃の人間関係から一歩も進んでいないこと、39歳の彼にとっての自立とはどのようなものだったのか」と、児童養護施設を卒園していく多くの子どもたちにも思いを馳せている記事だったのだ。

15歳という若さで社会に出、彼らを支える特定の大人もいない中で、ちょっとしたおとなの支えだけではどうにもならないような重たいものを彼らひとりひとりが抱え込んでいる。こうした深い洞察と、やむにやまれぬ心情が、制度もない中で、「星の家」をつくり、多くの支援者、理解者を拡げてくる原動力になったのだろう。

感受性の深さは、新たな方法と新たな人間関係で解決しようとする営為から生まれている

この連載は、障害は社会的で環境の要素が大きく、人間や人間関係の様々な問題は、その国の社会制度に大きく起因するもので、個人の責任に起するものは限りなく小さいということ。むしろ、障害というハンディーは社会的障壁と言う二重のバリアーを強いられている存在だという理解を深める趣旨であった。それが、星の家の実践（こそ実践というべきだと思う）によって、自分がいかに与えられた情報と自身の経験だけで解釈し、底の浅い感受性であるということを実感させられた。

この差はどこに起因しているのだろうと考えたが、思うに、彼らは、児童問題にぶち当たってしまい、見過ごすことができずに日々児童福祉労働者として仕事に向かい合っているだけでなく、制度（与えられた道具）だけで解決しようとしても困難な、新たな問題を、新たな人間関係を創りながら解決しようとしている。その行動、経過こそ、この感受性の深さと拡がりを作り出している源なのではないかと思った。福祉という魂で、事象の一つひとつをみているのだと思う。

傍観者も「傍観させられている」社会（問題）は、地域社会に向かおうとしない自分自身のなかにある

問題が起きたときに、人間の態度としては加害者と被害者だけがあるのではない。大多数の傍観者がいるのだ。傍観者とは、世の中の制度や規範、大多数の平均的生き方の状況判断をしてしまい、問題意識が時の流れの中で無感覚状態に陥っていることかもしれない。しかし、自身を振りかえると、その傍観者にしても、社会の諸矛盾の中で、傍観を強いられている人なのかもしれない。だからこそ、傍観者を含めた問題解決の人間関係を創る中で、被害者の自立生活をすすめ、ひいては加害者をも救っていくことになるのかもしれない。こうした過程の中でこそ、人間的な感情や人間のみかたも育ちあい、人間関係を引き裂く仕組みをヒトツヒトツつくり変えながら、地域と自身の改革が実質的に進んでいくのだろうと思う。社会（問題）は、地域社会へ向かおうとしない、自分自身の中に存在しているのかもしれない。